

Publication No. JP 59-183836 U (published on 7 December 1984)

BOTTLE MADE OF SYNTHETIC RESIN

A bottle 1 made of a synthetic resin comprises a handle 7, and a cylindrical body 3, wherein the handle 7 includes a longitudinal vertical base plate 10 having a lower end base portion 8 formed with a button 9 protruded therefrom and a thin thickness portion 11 formed at the upper end portion thereof, and a grip member 12 formed integrally with the thin thickness portion 11 of the base plate, the grip member 12 including a horizontal extending portion connected at one end thereof to the thin thickness portion 11 of the base plate and extending horizontally outwardly from the thin thickness portion by a certain length, a downward extending portion bent at and downwardly extending from the other end of the horizontal extending portion so as to define a proper space between the base plate and the downward extending portion, and an inward bending portion bent inwardly at and further extending downwardly from a lower end of the downward extending portion so as to abut against the inner face of the lower base portion 8, the inward bending portion being formed with a buttonhole for allowing the button 9 to be fitted thereto, and wherein the handle 7 is securely fixed to the bottle body 1 in such a manner that the outer face of the base plate is firmly attached to the outer circumference of a cylindrical body 3 of the bottle body 1 by means of a shrink film 14 wound around the outer circumference of the cylindrical body 3 via the base plate 10.

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—183836

⑮ Int. Cl.³
B 65 D 23/10
25/28
71/08

識別記号

庁内整理番号
7312—3E
7312—3E
7214—3E

⑯ 公開 昭和59年(1984)12月7日

審査請求 未請求

(全 1 頁)

⑰ 合成樹脂製壺

東京都江東区大島3の2の6株
式会社吉野工業所内

⑱ 実 願 昭58—79482

⑲ 出 願 人 株式会社吉野工業所

⑳ 出 願 昭58(1983)5月25日

東京都江東区大島3丁目2番6
号

㉑ 考 案 者 後藤孝之

㉒ 実用新案登録請求の範囲

下端の基部8外面から釦9を突設した縦形板状の基板10上端から、肉薄部11を介し基板10との間に適宜の空間を形成する如く一旦外方に突出してのち下方に垂下し、該垂下端を前記基部8に接面できる如く内方に折り曲げ、且つ該下端に前記釦9に嵌込む止め孔13を明けた把手体12を一体に設けた把手7を設け、この把手7を、そ

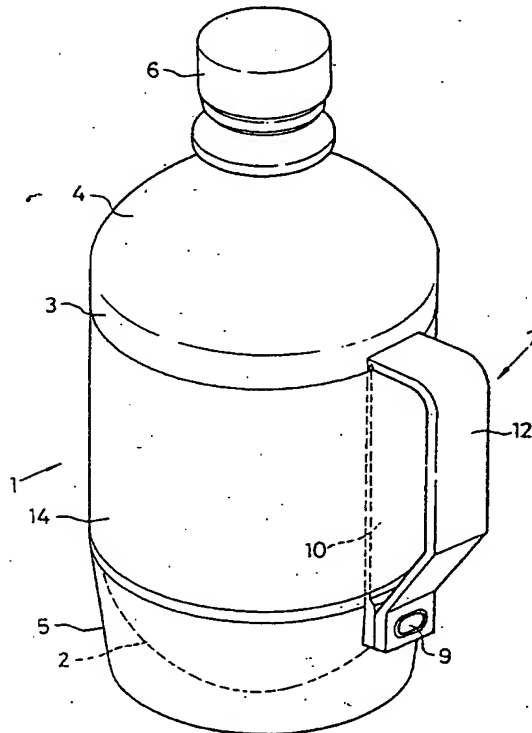
の基板10を介し壺胴部3外面に巻着するシュリンクフィルム14により該胴部3外面に締付け固定して壺体1に取付けた合成樹脂製壺。

図面の簡単な説明

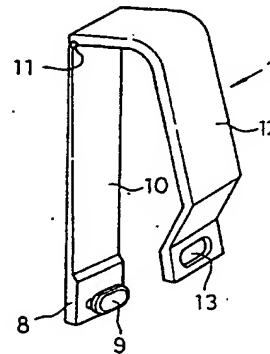
第1図は本考案合成樹脂製壺の一実施例の外形斜視図、第2図は同壺の把手の斜視図である。

1…壺体、7…把手、10…基板、12…把手体、14…シュリンクフィルム。

第1図



第2図



⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭59—183836

⑫ Int. Cl.

B 65 D. 23/10

25/28

71/08

識別記号

庁内整理番号

7312—3E

7312—3E

7214—3E

⑬ 公開 昭和59年(1984)12月7日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑭ 合成樹脂製塊

東京都江東区大島3の2の6株
式会社吉野工業所内

⑮ 実 願 昭58—79482

⑯ 出 願 人 株式会社吉野工業所

⑰ 出 願 昭58(1983)5月25日

東京都江東区大島3丁目2番6
号

⑱ 考 案 者 後藤孝之

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1. 考案の名称 合成樹脂製壺

2. 実用新案登録請求の範囲

下端の基部 8 外面から鉤 9 を突設した縦形板状の基板 1 0 上端から、肉薄部 1 1 を介し基板 1 0 との間に適宜の空間を形成する如く一旦外方に突出してのち下方に垂下し、該垂下端を前記基部 8 に接面できる如く内方に折り曲げ、且つ該下端に前記鉤 9 に嵌込む止め孔 1 3 を明けた把手体 1 2 を一体に設けた把手 7 を設け、この把手 7 を、その基板 1 0 を介し頸胴部 3 外面に巻着するシュリンクフィルム 1 4 により該胴部 3 外面に締付け固定して壺体 1 に取付けた合成樹脂製壺。

3. 考案の詳細な説明

本考案は合成樹脂製壺に係り、特に簡易な把手を付設して持ち運びに便なるよう構成した合成樹脂製壺を提供せんとするものである。

以下添付図面を参照して本考案実施例を説明するに、図で、1 は例えば飽和ポリエステル樹脂製のコールドバリソンを二軸延伸させて形成した合

成樹脂製の型体で、底部2は球面状に下方に膨出形成されている。3と4は型体1の胴部と肩部であり、5は型体1を安定に起立させるため胴部下端に嵌合装着したカップ状の脚台である。6は口頸部に螺着したキャップを示す。

7が合成樹脂材成形品からなる把手で、下端基部8外面から釘9を突設した縦形の板状の基板10の上端から、折り曲げ自在の肉薄部11を介し基板10との間に適宜の空間を形成する如く一旦外方に突出してのち下方に垂下する把手体12を一体に設け、この把手体12の下部を、前記基部8に接面できる如く内方に斜行してから下方に延びる形状とし、その下端部に前記釘9に嵌込まれる止め孔13を明けたもので、胴部3外面に装着されるシートラベル用のシュリンクフィルム14を利用し、このフィルム14巻替時、把手7の基板10を胴部3と一緒に巻き、このフィルム14の加熱収縮により基板10を胴部3外面に締付け固定することにより型体1に取付ける。

上記実施例において、把手7をその基板10下

端の基部 8 により、第 2 図の如く予かじめ脚台 5 と一体に形成しておくこともできる。また脚台 5 に替えて胴部 3 下端に嵌着されるリングを用いることもできる。尚、前記脚台 5 は、球面状の底部 2 から瘤状の支^脚を 3 脚状に垂設したものの場合は不要である。

この種壺は近來大形化しつつあり、手掛りがないと持ち運びに不自由する。しかし、上記本考案では把手 7 を付設したので、壺が大形となつても持ち運びが楽であり、扱いが便となる。またこの把手 7 は極く単純な形状の一部品からなり、しかも壺胴部 3 外面に巻着するシートラベル用のシュリンクフィルム 14 を利用し、このフィルム 14 の加熱時の収縮により胴部 3 外面に締付け固定して壺体 1 に取付けるので、その構造、取付けのいずれも簡単であり、さらに把手 7 を付設しても壺体 1 側にはそのために特別に加工を施さずにすむ利点がある。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案合成樹脂製壺の一実施例の外形

斜視図、第 2 図は同様の把手の斜視図である。

1 .. 型体

7 .. 把手

10.. 基板

12 .. 把手体

14.. シュリンクフィルム

実用新案登録出願人

株式会社 吉野工業所

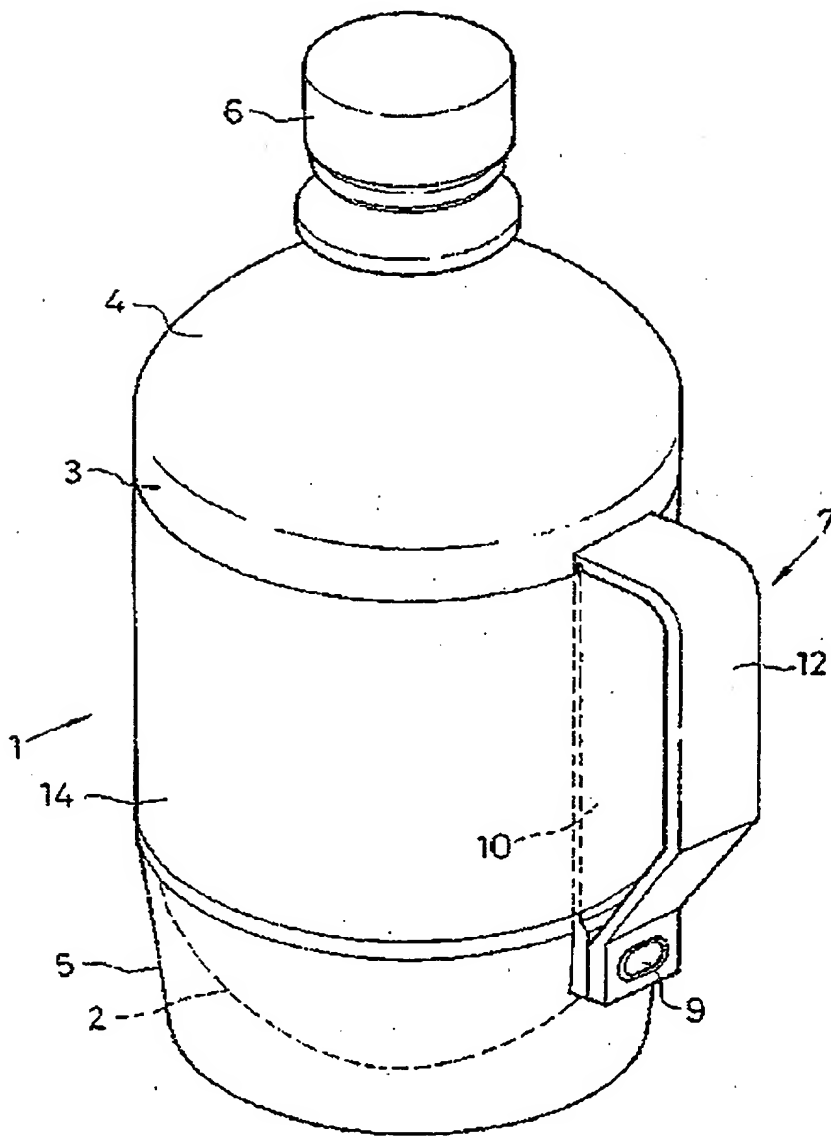
代 表 者

吉 野

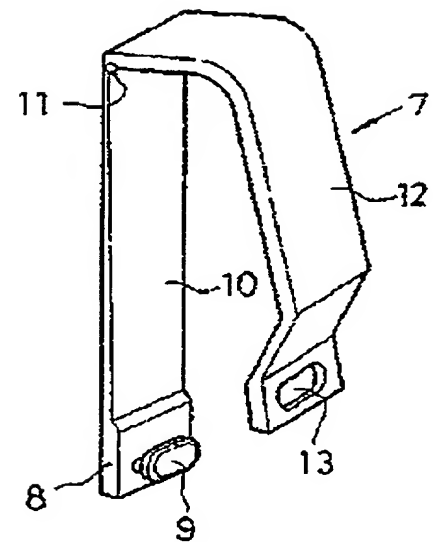
弥 太 郎

BEST AVAILABLE COPY

第 1 図



第 2 図



326

実開59-183836

出願人 株式会社 吉野工業所

代表者 吉野 弥太郎